

# II

## とちぎの可能性



## II

# とちぎの可能性



東北新幹線と北関東自動車道

### 1

## 恵まれた立地条件・ 広大な県土

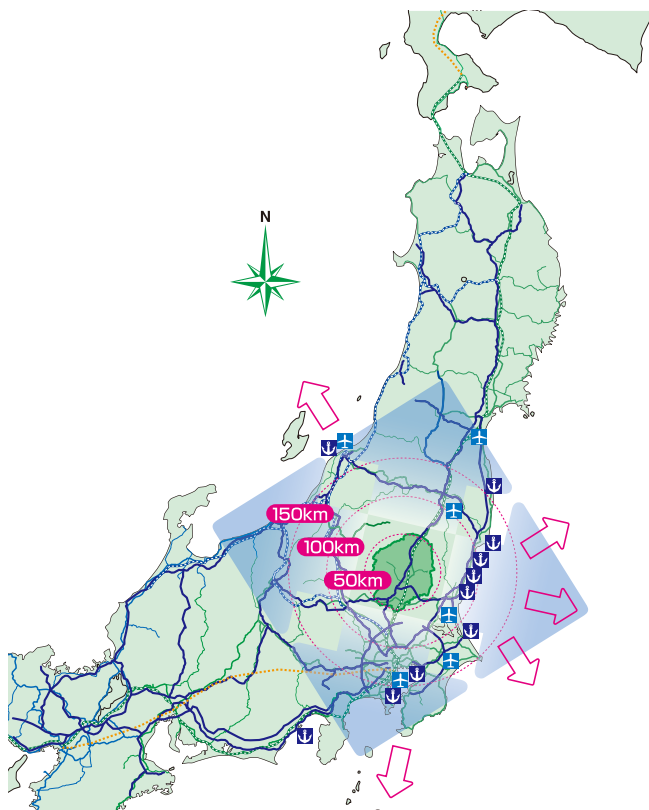
本県は、首都東京から60～160kmの首都圏北部に位置し、東京の持つ世界有数の質の高い様々な機能やサービスはもとより、首都圏内にある国際都市機能や研究開発機能などの活用が容易な環境にあります。

また、東北縦貫自動車道や東北新幹線などによる東京と東北・北海道を結ぶ南北軸と、北関東自動車道などによる太平洋と日本海を結ぶ東西軸の結節点に位置し、交通の要衝としての地理的優位性を有しています(図表1)。

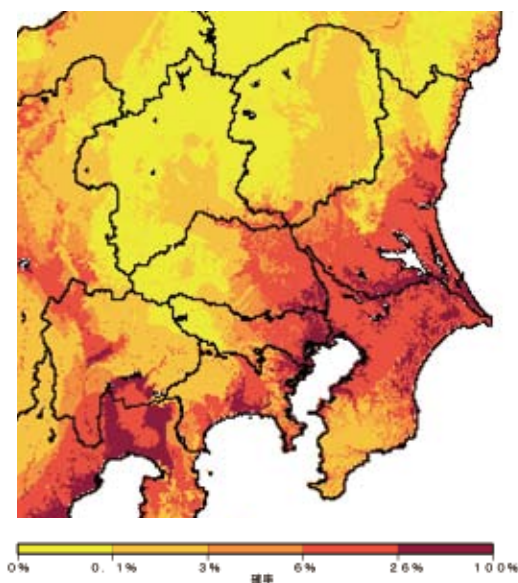
さらに、関東地方最大の面積を有し、県央・県南部に広がる平野、那珂川、鬼怒川、渡良瀬川をはじめとする河川など暮らしや産業活動の基盤となる土地や水資源にも恵まれているだけでなく、楕円形を成し比較的平坦な地形であることから、県内各地への移動が容易で地域間交流がしやすい環境でもあります。あわせて、地震などの大規模な自然災害リスクが少ないという特徴も持っています(図表2)。

今後、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の全線開通や北海道新幹線の開業、さらにはリニア中央新幹線等を見据え、本県の立地環境は大きく変化する可能性があります。

図表1：恵まれた立地条件にある栃木県



図表2：2014年から30年間に震度6強以上に見舞われる確率



資料：地震調査研究推進本部「全国地震動予測地図」から関東地方近隣を抜粋

## 2

## 誇れる豊かな自然と 地域に根ざした歴史・文化



男体山と中禅寺湖

本県には、我が国を代表する日光国立公園に加えて、豊かな地域特性を持つ8つの県立自然公園などがあり、貴重で美しい自然が多く残されています。

雄大な山々から清らかに流れる河川や緑豊かな里山、田園などが織りなす四季折々の風景を県内随所に見ることができるなど、自然と身近にふれあえる環境があり、さらに、2つのラムサール条約湿地を有するなど、希少で多種多様な動植物が生息・生育しています。

こうした自然は、鬼怒川、那須、塩原など恵まれた温泉などの観光資源とともに、やすらぎや憩い、癒しのひとときを過ごせる観光地としても親しまれています。

また、本県は、古くは東山道が、江戸時代には奥州街道、日光街道などの主要街道が南北に通るなど、人や物が盛んに行き交う地域であり、その長い歴史の中で生まれ、現代に守り伝えられてきた、歴史的価値の高い世界遺産など、貴重な資源が数多く存在しています。

さらに、織物や陶器などの伝統工芸品や、伝統行事、伝統芸能など、本県の風土と生活の中で生まれ、受け継がれてきている優れた文化や技術は、県民共有の財産です。

こうした地域に根ざした文化を土壌に、新しい文化を創造する動きも活発化しており、新進音楽家コンクールなど文化の担い手を育成する取組や県民の手による文化イベントの開催など、新旧の地域文化の融合により、新たな文化の息吹が感じられます。



史跡 足利学校



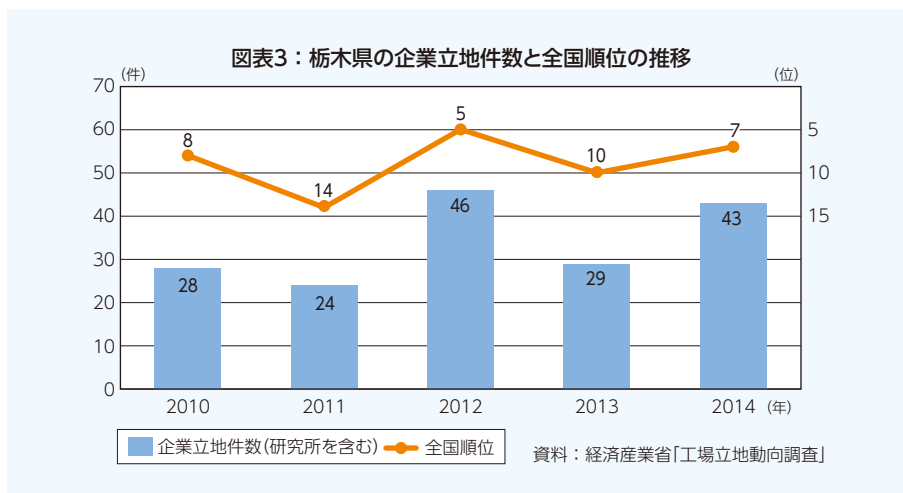
益子焼の登り窯

### 3 活力ある産業



真岡第5工業団地

本県は、各分野で国内トップクラスのシェアを誇る企業の立地や、世界に誇れる卓越した技術と優れた製品を有する中小企業の成長等により、多様な分野の産業がバランス良く集積した国内有数の「ものづくり県」であり、近年では、先端技術や研究開発機能を有する企業の進出を含めて企業誘致数が全国上位で推移するなど、新しい動きも生まれています(図表3)。



また、観光産業については、日光、那須などの全国有数の観光地を有するとともに、豊かな自然や優れた文化遺産を生かし、観光客数や観光消費額が増加するなど成長を続けており、東京圏に近接することから、東京オリンピック・パラリンピックを契機とする外国人観光客の増加や、地域資源を生かした交流人口の拡大等により、今後も大きく成長する可能性があります。



日光東照宮



市貝町芝ざくら公園

農業は、豊富な水や恵まれた気候のもと、大消費地に近いという地理的条件や農業者の優れた技術を生かしながら、米麦・園芸・畜産がバランス良く展開されており、40年以上収穫量日本一であるいちごをはじめ、全国上位を占める農産物が数多くあります(図表4)。

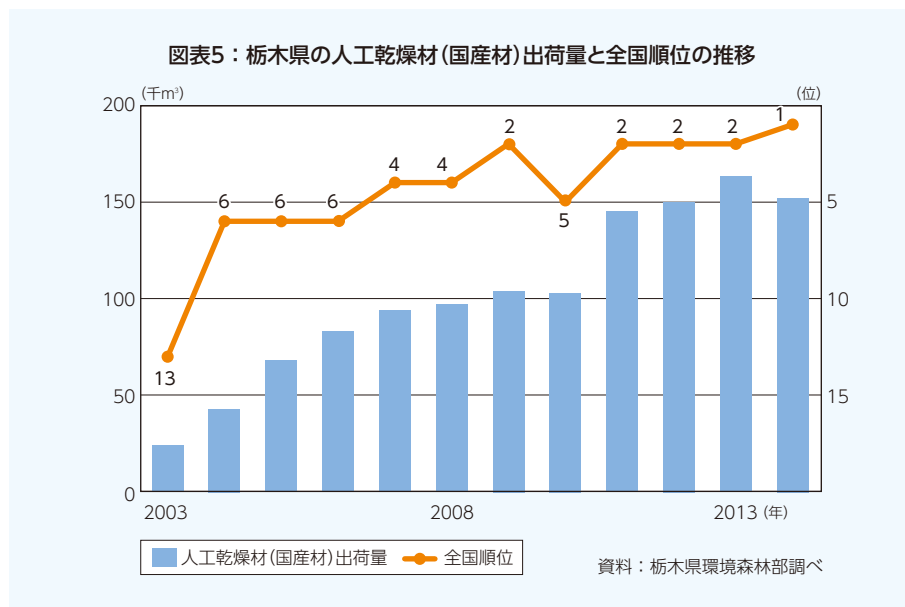
図表4：栃木県の主な農産物のうち生産量が全国上位を占める品目

順位	生産量が全国上位を占める農産物(平成26年産)
1位	いちご、二条大麦※1、かんぴょう※2、うど※2
2位	にら、生乳、こんにゃくいも
3位	スプレーぎく、日本なし
4位	六条大麦※1、アユ漁獲量
5位	はくさい、シクラメン
6位	トマト、なす、そば

※1 平成27年産 ※2 平成24年産

資料：農林水産省「農林水産統計」

さらに、林業・木材産業は、質が高く豊富な森林資源や優れた製材・乾燥技術、大型の製材・集成材工場の進出などにより、全国トップクラスの製材能力を有しています(図表5)。



農林業は、これらの強みを生かしてさらに成長する産業となる潜在力を有しています。

## 4 人口の将来展望



中学生と赤ちゃんとのふれあい体験

本県が実施した県民意識調査等において、結婚意欲を有する若い世代は全国と同様に8割を超え、夫婦等の理想の子ども的人数は、全国平均を上回っています(図表6)。

また、県内高校生の「栃木県内に住みたい」との意向が高まるとともに、若い世代を中心に東京圏に居住する本県出身者の4人に1人がUターンを予定・検討したいと回答していますが、若い世代の結婚・出産・子育てやふるさととちぎへの移住・定住の希望の実現には、安定した経済的基盤の確保などが必要とされています(図表7)。

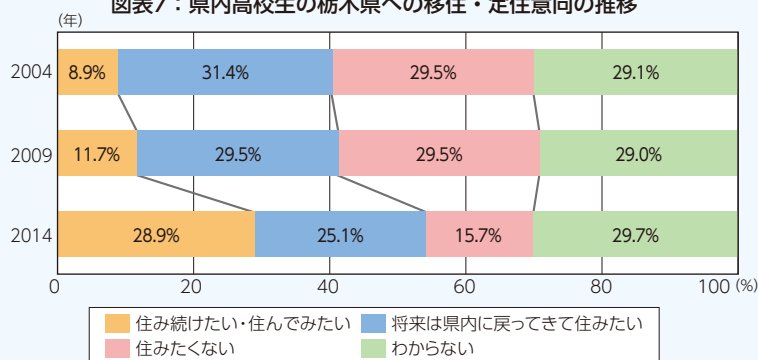
図表6：夫婦等の平均理想子ども人数(栃木県・全国)

区分	既婚女性 (50歳未満)	未婚女性 (35歳未満)
栃木県	2.46	2.34
全国	2.42	2.12

※栃木県の調査対象者は20歳以上・全国の対象者は18歳以上

資料：栃木県「これからの“とちぎ”づくりに関する県民意識調査」  
国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査(夫婦・独身者)」

図表7：県内高校生の栃木県への移住・定住意向の推移



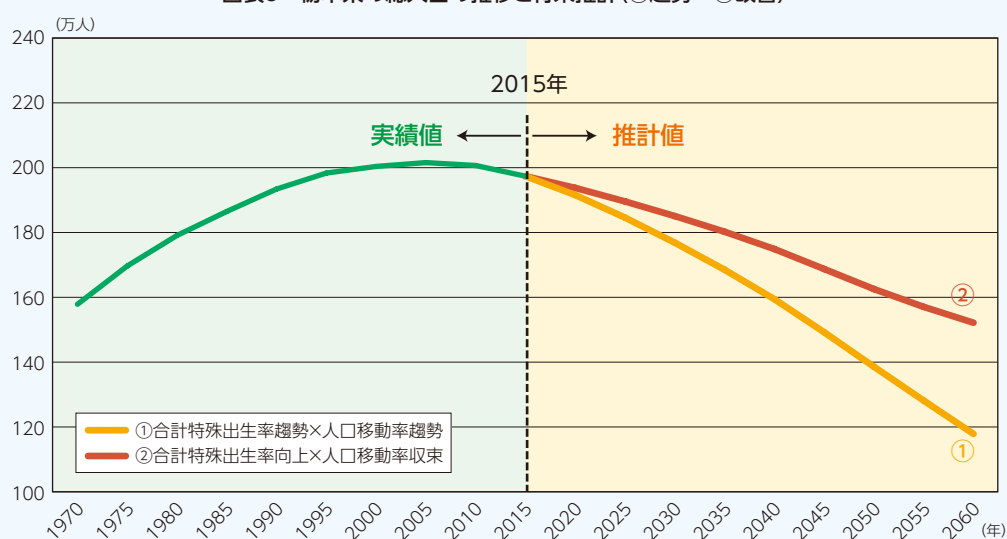
※無回答を除く

資料：栃木県「これからの“とちぎ”づくりに関する若者意向調査」

雇用の創出・確保等により経済的基盤を確保し、こうした若い世代の希望を実現することなどにより、平成72年(2060年)に150万人以上の総人口を確保することができると見込まれます(図表8)。

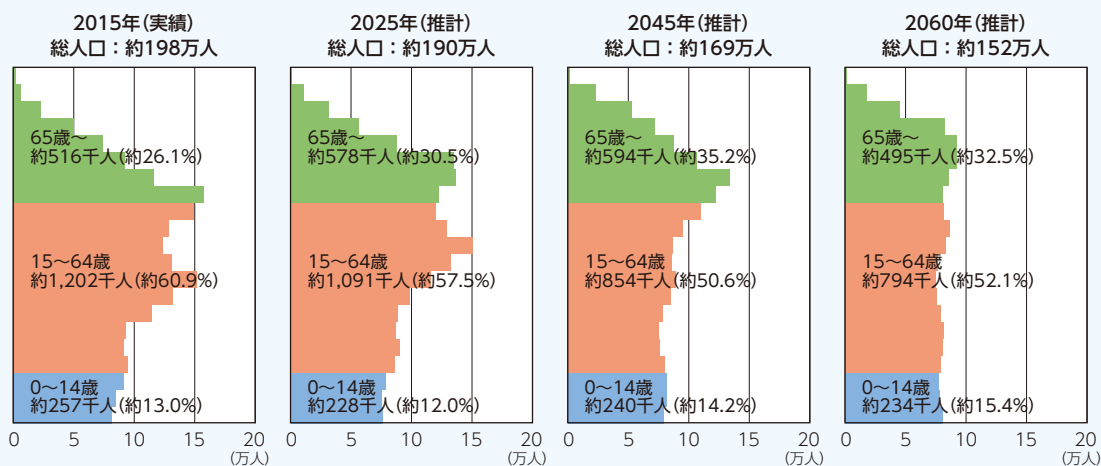
また、人口減少に歯止めがかかれば、高齢化率は、平成57年(2045年)の約35%をピークに低下し、平成72年(2060年)は約33%となることを見込まれるなど、人口規模はもとより、人口構成も安定させることができます(図表9)。

図表8：栃木県の総人口の推移と将来推計(①趨勢・②改善)



資料：総務省「国勢調査」  
 栃木県「平成27年栃木県の人口」  
 栃木県総合政策部推計

図表9：栃木県の5歳階級別人口の将来推計(改善)



資料：栃木県「平成27年栃木県の人口」  
 栃木県総合政策部推計



# とちぎの百様 その1 ①~50



栃木県マスコットキャラクター  
とちまるくん

県民の郷土愛の醸成と本県のブランド力の向上を図るため、後世に残したい、大切にしたい、自慢できる本県の100の地域資源を選定しました。雷を「雷様(らいさま)」と呼ぶように、「敬意」と「親しみ」を込めて「とちぎの百様(ひやくさま)」と名付け、郷土愛と誇りを持って県内外に広く発信していきます。



① ~ 31 【歴史・文化・人物】  
32 ~ 50 【自然】

その2はP38